



しいたけの作り方

《用意するもの》

- 原木：末口径10cm、長さ90cm
 - ナラ類が最適。写真はミズナラ。
 - 伐倒期は秋から春の新芽が出るまで、玉切りは伐後40-60日が最適。
- しいたけ種駒（駒菌方式）※1袋1,000個入り2,600円程度
- 電動ドリル＋発電機（450W）
- 木槌
- 蠟＋小鍋＋コンロ＋刷毛
- ムシロ＋縄＋ビニールシート

《植菌作業時期》

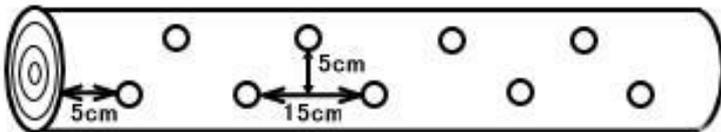
しいたけの植菌は桜の花の咲く寸前（札幌なら5月の連休直前）が良い

1. 穴あけ（写真-(2)）

原木に電動ドリルで菌を植え込む穴（千鳥穴）をあける。

【千鳥穴の目安】

- 穴の間隔：縦方向に15cm（末口からは5cm）、横方向に5cm。
- 穴の深さ：2-2.5cm。菌を植え込んだとき、底に5-10mmの空間が空く程度の深さの穴が理想。
- 穴の数：末口径の約3倍。10cmの場合は30個。



●穴の断面



2. 植菌（写真-(3)）

木槌で種駒を打ち込む。やさしく、表面が平らになるように打ち込む。

3. ロウ塗り（写真-(4)）

溶かしたロウを種駒の表面に塗る。雑菌の進入と乾燥を防ぐ為。

4. 仮伏せ

40-50日置き、菌糸の活着を促す。



(1)

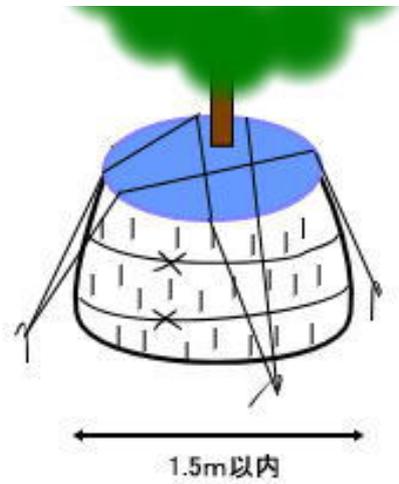


(2)



(3)

●木陰を利用し、縦囲いしたほだ木をムシロとビニールシートで覆

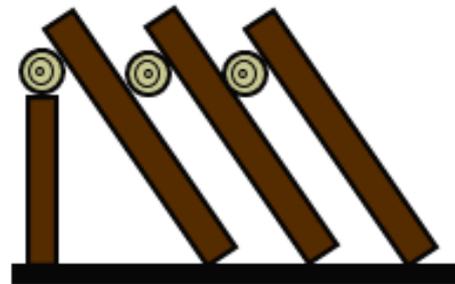
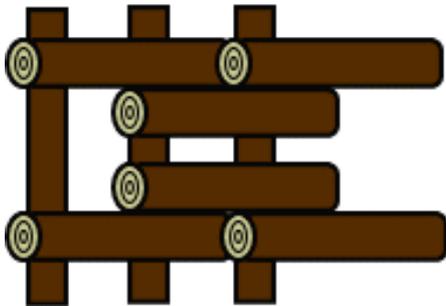


う。
 ●散水は1週間に1回程度。ほだ木の表面が軽く濡れる程度に。
 ●半月ごとに天地返し（ほだ木の上下をひっくり返す）＝菌をまんべんなく回す為。 (4)



5. 本伏せ (写真-(5)) ※鳥居伏せ
 直射日光に当てないよう、ホダ場は木陰を選ぶ。秋までに2回程度天地返しする。

(5)



 2年目の秋に発生⇒収穫

2-3年目が発生のピーク。4年目より収量は落ちる。